



約390年の歴史

下谷民俗芸能 鞆鼓舞

第5回下谷ふれあひまつり

25日、東金市下谷地区の下谷コミュニティ会館広場で、「第5回下谷ふれあひまつり」があり、地区内外から多くの方が訪れにぎわった。前日來の雨で、開催が危ぶまれたが、朝は小降りとなり、昼すぎにはすっかりあがった。日枝神社氏子社中による鞆鼓舞や、地区子ども会のダンス、東金中学校吹奏楽部の演奏、福岡公民館舞踊教室の舞踊の発表、北之幸谷獅子連の獅子舞など披露さ

れた。この祭りには、東金ユネスコ協会が協賛しており、郷土に伝わる伝統文化の保存継承、留学生と地域住民との交流、ユネスコ活動の宣伝と会員の増加、地域の活性化や親睦と融和などを目的としている。鞆鼓舞の来歴は、記録によれば、元和2(1616)年、江戸の山王大権現を勧請して下谷の地に社を建立する際、御分霊の巡行の露払いとして鞆鼓の舞いを行い、それを地区の青少年の長男に習わせたのが始まりと伝えられている。約390年間、連綿と伝えられ現在に至る。東金市では日枝神社の鞆鼓舞を無形民俗文化財に指定し、また、伝承保存団体に指定している。鞆鼓舞の名称は、軽快な調子、鞆鼓の音色に合わせ

押し花工作

24日、東金市児童館で「押し花工作」が行われ、14名の児童が参加、押し花の壁掛け作りを楽しんだ。牛乳パックで花を作り、押し花を貼る工作の紹介、押し花の作り方を説明し、押し花の壁掛け作りを行った。児童たちは、押し花の壁掛け作りを楽しんだ。押し花の壁掛け作りは、押し花の壁掛け作りを楽しむことができた。押し花の壁掛け作りは、押し花の壁掛け作りを楽しむことができた。

舞うことからという。獅子の三ヶ頭、大獅子、若獅子、雌獅子の三体が役割に応じ、動き舞う。五穀豊穰、子孫繁栄、悪疫退散等、里人の安寧の願いを込めて日枝神社の神前に奉納する。

